

2017年冬号

笑顔と心をつなぐネットワーク 明社通信

# HEARTFUL

はーとふる

連載『これから明るい社会づくり運動・3つの方針』活動紹介

広島県・広島市佐伯区明社

連載 未来を創造する子どもたち  
第8回 地域のために生きる力を育む

被災地レポート「わすれない、いつまでも」  
第11回 福島県福島市 交流事業で絆を結び直す



明るい社会づくり運動広島市佐伯区協議会  
会長 免出和子さん

父の書棚にあつた提唱者の熱い思いや考えがいっぱいのご著書を拝読し、明社運動に感動いたしました。当初、「佐伯区明社をどのようにしたらよいのか」「明社は宗教なのか」と指摘され、戸惑いました。

地域に向けた活動を進めるために、役員・会員さんと意識改革に取り組み、区民行事に参加。特に佐伯区コミュニティ交流協議会に所属している団体の活動には、積極的に参加させていただきました。いまでは区政と諸団体とが、ひとつになって目的を達成する行事も増え、多くの区民に明社運動を伝え、会員の増加にもつながっています。

区民と会員の善意が結集する「区民まつりチャリティバザー」「アルミ缶回収リサイクル」の収益も、各福祉施設や被災地に役立てていただき、「継続が難しいことを実行する素晴らしい会だ」と、多くの方々に評価されております。会員の皆さんのおかげさまと感謝している毎日です。

明るい社会づくり運動広島市佐伯区協議会  
事務局長 井上京子さん

「~Smile for You~」は「あなたに笑顔を」という意味です。社会に対し、だれもができる幸福感であります。佐伯区明社の会員は215人。①奉仕、②クリエーション、③研修、④おやこっこ、

務めていた免出さんに、佐伯区明社の会長要請があつたのはいまから16年前のことでした。「多くの会員を束ねることが困難」と思い、再三固辞した免出さんですが、本運動提唱者・庭野日敬師の著書を数冊読破。「会員共助の明社活動よりも区民の共助につながる活動に取り組まねば、明るく住み良い街づくりはできない」と決意し、会長職を受諾します。

2008年からは佐伯区コミュニティ交流協議会に加盟。45団体と連絡・調整を図りながら、各種区民事業に参加しています。

免出会長が願う「若い女性の事務局長」として就任した井上京子事務局長は、「~Smile for You~」を佐伯明社のモットーに掲げます。その想いをお聞きしました。

⑤もつたない運動の各担当にわかれ、区民の皆様のたくさんの笑顔を引き出せるよう、活動を展開しています。

地道な私たちの活動ですが、明るい社会づくり運動が認知され、明るく楽しくボランティアができればうれしいですね。さらに、若い人を巻き込める活動を通して、奉仕・感謝・協調の精神を培っていただければ最高です。若い人の温かい心に希望を抱き、これからも笑顔があふれる活動をしてまいります。

广島市佐伯区の五日市商工会女性部長を長年務めていた免出さんに、佐伯区明社の会長要請があつたのはいまから16年前のことでした。「多くの会員を束ねることが困難」と思い、再三固辞した免出さんですが、本運動提唱者・庭野日敬師の著書を数冊読破。「会員共助の明社活動よりも区民の共助につながる活動に取り組まねば、明るく住み良い街づくりはできない」と決意し、会長職を受諾します。

2008年からは佐伯区コミュニティ交流協議会に加盟。45団体と連絡・調整を図りながら、各種区民事業に参加しています。

免出会長に当時のご苦労をお聞きました。



第31回 佐伯区民まつり

## 連載

# 『これからの明るい社会づくり運動・3つの方針』

区民行事に積極的に参加し、区内の地域団体とコミュニティ活動を展開する地区明社があります。広島県の明るい社会づくり運動広島市佐伯区協議会(免出和子会長／以下、佐伯区明社)です。「~Smile for You~」をモットーに、地域に密着した活動を紹介します。〈写真提供：佐伯区明社〉



※10は前回からの通し番号です。

第8回(最終回)

# 地域のために生きる力を育む

東日本大震災をきっかけに、若者たちに芽生えた「地元の復旧復興の力になりたい」という気持ちを「地元への愛着」に昇華させ、さまざまな行動に導いている団体があります。岩手県宮古市のNPO法人みやっこベース(花坂雄大理事長／以下、みやっこベース)です。同法人を立ち上げ、理事・事務局長として活躍する早川輝さんに、その取り組みをお聞きしました。(写真提供:みやっこベース)



## みんなの心の拠り所

2013年2月、早川さんは自らの想いを形にするため、仲間とともに「みやっこベース」を設立。ボランティア活動でつながった市内外の仲間たちも立ち上げに関わりました。

すぐに宮古市内の高校生が互いの考えや思いを共有する場「高校生サミット」に着手すると、毎月1回、異なるテーマで議論を交わしました。

これまでボランティアの経験が一切ないため、「県外の個人」では受け入れ先がなかなか見つかりませんでした。数か月後、社協の「個人ボランティアの受入開始」という情報を見つけ、事前に連絡し、夜行バスで現地入りしました。

当初は、がれき撤去をはじめとする力仕事でしたが、次第に学習支援のコーディネートや、地元の短大生や高校生たちと仮設住宅内に子ども達の遊び場を創る活動などの支援活動に移行していきました。そして、彼らと活動を共にする中で「もっと多くの高校生たちに地元の復興支援に関わってほしい」という想いが生まれてきたのです。

当時は地域のために活動する学生は限られていました。これは自発的に参加しない学生に責任があるのではなく、もっと若いうちから地域社会に参画する機会があつたり、学生ボランティアセンターのような窓口があれば、地域活動に関わるハードルも下がると思ったのです。



## 豪州からの帰国後、宮古市へ

北九州市出身の早川さんが宮古市で暮らし始め、今年で6度目の冬を迎えるました。ワーキングホリデーで2年間暮らしたオーストラリアから帰国した10日後に、大震災が発生。「何でもいいからお役にたちたい」と、宮古市社会福祉協議会(以下、社協)が運営するボランティアセンターの門を叩いたのは、2011年の6月でした。

- ①アルミニ缶回収リサイクル
- ②区民まつり
- ③チャリティバザー
- ④東日本大震災被災者支援募金
- ⑤八幡川クリーン作戦
- ⑥佐伯区コミュニティ交流協議会
- ⑦おやこっこ
- ⑧広島土砂災害支援募金
- ⑨「むぎの家」に寄付・奉仕活動



- ①アルミニ缶回収リサイクル
- ②区民まつり

現在、佐伯区明社が区民と協働する事業は以下のものがあります。

長年、佐伯区明社の活動を支援している広島県明社の石栗實会長に、これからの期待を語つてもらいました。

## 広島県明るい社会づくり運動連絡会

会長 石栗 實さん



2014年に全国明社が発表した『3つの方針』に沿った活動を、多行事にわたり積極的に実践され

ていることに、敬意と感動を覚え、感謝でいっぱいです。

また、本運動を未来永劫に継承するため、若い人たちにも参加を呼びかけ、「老若男女」一季節に集中することなく、四季を通じての参加形態もとてもよく調整されていて感心しています。

「もつたいない運動」の一環として、アルミニ缶の回収にも取り組み、昨年は地震で被害を受けた熊本城修復の寄付もされました。社会貢献の大なるものでしょう。

地区協議会の状況や諸事情は、地域によって異なりますが、県連絡会としては、これらの実践力をお手本として見習い、これからも広島県のリーダー協議会として、率先して活動くださることに期待しております。



## これからの明るい社会づくり運動・3つの方針

—2014年の『全国都道府県会議』で発表した、本運動がこれから目指していく具体的な3つの方針—

- 1 地域のために活動している諸団体と連携し一緒に活動を行い、身近な問題に取り組む市民運動として展開していく。
- 2 行政等の実施する地域活動や催事に積極的に参加し、行政との信頼関係を築いていく。
- 3 地域に合ったさまざまな活動をきっかけに、地域社会に貢献したいという願いをもった個人・団体へ積極的に呼びかけ、善意の実践の場を提供していく。

これら方針に基づく活動を今後も紹介していきます。